

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870600339
法人名	社会福祉法人 光明会
事業所名	グループホーム かわせみ
所在地	愛媛県西条市大町776番地23
自己評価作成日	平成23年11月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者がほっとくつろげる居場所づくり ・医療との連携が綿密で24時間 365日安心できる (関連医療機関が同一敷地内にあり緊急時の受け入れ態勢が整っている) ・地域・家族を交えての行事 ・職員の移動がなくなじみの職員が継続して関わることができている
--

<p>利用者は、希望により全員が夕食後に入浴できるよう支援されている。「体を洗ってから浴槽で温まりたい」「温まってから体を洗いたい」等、個々の習慣や希望に応じた支援に取り組まれている。小柄な利用者の方から、「たっぴりのお湯で温まりたい」と希望があり、今後、吸盤付きの風呂用椅子を購入して、浴槽に入れて使用する予定となっていた。壁に富士山の絵が貼ってあり、浴室の雰囲気も楽しめるように工夫されていて、利用者は気に入られているようだ。仲良し同士で入ったり、お湯で温まりながら歌を歌う方もいる。浴室で体や髪を洗う時間に、足浴を行い、そのあと職員が足をていねいに洗い、水虫対策も行っておられる。</p> <p>年賀状は、利用者で職員の写真を入れて、できるだけご本人にコメントを書いてもらって、ご家族に出すよう支援されている。お誕生日に、ご家族からプレゼントが届いた際には、ご家族がお仕事から帰ってくる時間を見計らい、利用者がお礼を言えるよう、電話をかけてサポートされている。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム かわせみ

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

高橋 英子

評価完了日

23 年 11 月 10 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員で話し合い理念を作りました。理念にある「共」は利用者、ご家族、職員、地域の方等利用者に関わるすべての人と考えています。理念をロッカー室に掲げ出勤時に念頭におきサービスを提供するようにしています。 (外部評価) 「共によるこび 共に微笑み そっと背に手を添える 共感できるケアを目指します」と、職員全員で理念を作成し、玄関・事務室・ロッカーに掲げておられる。又、理念を職員の名札の裏に入れていつでも確認できるようにしておられる。さらに、理念は、運営推進会議時や相談や見学に来られた方・申し込みに来られた方にも話しておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日々の暮らしの中で自然に関わりが持てるよう散歩中の挨拶や会話を積極的にしています。近くの理髪店の方が散髪に来て下さり一緒に食事をしたり、秋祭りでは地域の方が見物しやすいように場を提供してくれています。 (外部評価) 散歩時、近所の方のお庭の花を見せてもらったり、お花の育て方等を教わることもある。又、野菜を持って来てくださる地域の方もいる。介護相談員は、行事時にお手伝いをして下さったり、介護相談員が主催で、そうめん流しやカレーパーティーを楽しまれたこともある。さらに、地域のボランティアの方が大正琴を聞かせてくださったり、今後は、セラピー犬も来てくれるようになっていく。ご自宅で介護をしている方で「困っている方」や「誰かに話を聞いてもらいたいという方」も訪ねて来られ、管理者は、お話をゆっくり聞き、アドバイス等をされている。管理者は、地区の老人会のイベントのお手伝いをされることもあり、役員会にも参加して地域の一員として、ともに活動されている。	管理者は、日頃地域の方達とかかわる中で、地域の方の「認知症への理解がまだまだ進んでいない」と感じる面もあるようだ。管理者は、認知症の方が「どんな思っているか」ということを地域の方達にも知っていただけよう、地域の中で、認知症についてお話する機会を作っていきたいと考えておられる。又、職員は、地域の方ともしっかりと交流する機会を作りたいと話しておられた。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症介護の相談窓口となり相談に応じています。相談に来られた方に介護サービスについて紹介したり具体的な支援の方法をお伝えしています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に近隣のグループホームの職員や関連病院のPT、ST、MSW、Ns等参加していただき、専門の方からのミニ講座を開催しました。また意見等が出やすいようグループワークを取り入れ、そこで出た意見を職員全員で話し合いサービスに活かすよう努めています。</p> <p>(外部評価) 会議は、利用者、ご家族、老人会長、民生委員、介護相談員等が参加して下さって、2カ月に1度、木曜日の11時からと決めて開催されている。すべてのご家族に案内し、3～5名のご家族が参加して下さっている。4月からは、系列の「小規模地域密着型介護老人福祉施設」と合同で会議を行ってられる。市内の他グループホームと相互で会議に参加し合っており、事業所は、会議の持ち方を見直された。会議時には、法人の理学療法士、言語聴覚士の協力を得て「転倒しないためには」「嚥下障害について」等の「ミニ講座」も開催し、参加者も一緒に勉強されている。又、参加者でグループワークを行うようにして、より具体的に質問や意見等も出るようになったようだ。10月の会議では、地域資源についてグループで情報を出していただいた。ドライブして食事ができる場所や季節の花が楽しめる場所等、様々な情報を得て今後の活動に活かす予定となっていた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に包括担当者出席してもらい、情報交換の場となっています。市の介護支援専門員にもケアプラン等について相談できる関係となりました。</p> <p>(外部評価) 台風等が発生すると市の担当者から「大丈夫ですか？」と連絡をいただき、事業所では心強く思っておられる。又、介護度が急激に変化したような利用者について、経過をみるための記録の仕方等をアドバイスいただいた。成年後見制度を利用されている方は、後見人の方が毎月利用者の様子を見に来て下さっている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束について正しく理解するよう学習し、拘束しないことで起こりうるリスクについても学び、利用者ごとの対応方法を検討しています。身体拘束は行っていません。</p> <p>(外部評価) 日中は、玄関に鍵をかけず、利用者が外に出ようとされた時には声をかけたり、散歩に付き添うようにされている。又、立ち上がり時にふらつきが見られるような利用者には、職員がそばについて見守ったりサポートされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待とは言い切れないが不適切なケアではないか、良かれと思う発言でも結果的に虐待となっていないか、常に意識しています。認知症について正確に理解しケアの質を高めるよう職員全体で学んでいます。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用者に成年後見制度を利用している方がいます。成年後見人の方から教えてもらう機会が増えています。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) GH利用前に十分に説明し、不安や疑問を尋ねるようにしています。又、契約内容改定の際、家族会で皆さんに説明し、その都度理解をもらえるようにしています。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会でご家族から職員も家族会に参加してほしいとの要望がありました。職員が参加したことで意見が多く引き出せ具体的な話ができ実りの多い会が行えました。また介護相談員とご家族が話をする機会があり事業所のケアに対する意見を聞くことができました。 (外部評価) 家族会は、年2回、お花見や運動会后、開催されている。運動会等の活動に、ご家族も参加することで、活動の目的や意義等の理解にもつながった。毎月、ご家族に送付する「連絡表」には、「日中・夜間の様子、食事、入浴、活動、コミュニケーション、体調面・受診、訴えや希望等」それぞれ項目ごとに、担当の職員が、利用者ご本人の様子を詳細に記入して報告されている。写真も同封されており、ご家族からは、「様子がよくわかる」と、好評である。さらに、より詳しい内容を知りたいご家族には、日々の介護記録を閲覧することも可能であることを伝えておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月 / 1回 運営委員会を開催し、代表者・施設長・管理者・職員が運営状態について話し合っています。事業計画についても職員全体で話し合い意見を出しています。	
			(外部評価) 昨年度、外部評価は実施されなかったが、すべての職員で自己評価に取り組みました。毎月の職員会議時には、職員が意見を言うことができ、又、勉強会も合わせて行っておられる。パソコンが得意な職員が中心となって掲示物や事業所便りを作成されている。管理者は、職員からの提案には「とりあえず行なってみる」ことを大切にされており、ガーデニングスペース等のアイデア等も出されている。法人では、研修会や資格取得にも積極的に取り組まれている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は職員がやりがいを感じ働くことができるよう職場環境・条件整備に努めています。考課表には各自のコメント欄があり職員がどう感じ働いているかを知っています。永続勤務者の表彰がありました。	
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員全員が職員個々の力量にに応じた外部研修に参加できるように計画しています。又、内部研修は月 / 1回行い、ケアの質向上に繋げています。資格取得を奨励しています。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) GH研修や他の外部研修は同業者との交流の場となり、ネットワークづくりともなっています。近隣のGHとお互いの運営推進会議に参加し相互に学習し合える関係となりました。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前に自宅へ訪問させてもらったり、本人が今どうしたいのか、どう考えているのかを知ることができるよう努めています。何度も会い、顔を見知ってもらうことが大切と考えています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族が何に不安を感じているか知るよう努め、ひとつづつ解消できるようにしています。何でも話をしてもらえ関係づくりに努めています。 (傾聴することが一番と思っています)	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) GHに入居するにあたり、家族や今までの生活の場と離れることが不安であると考え、できる限り家族やなじみの人と接する機会を多くもってもらえるようにしています。本人、ご家族がどう感じ考えているかを知るよう努めています。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) くつろいで 家族や仲間と一緒に過ごせる居心地の良い居場所をつくりたいと考えています。利用者が自分の生活リズムのなかで役割や居場所を見出していけるよう支援しています。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者がその人らしい暮らしを送ることができるよう ご家族と職員が話し合い支援内容を考えています。ご家族と本人との関係が良好で継続されるよう連絡調整しています。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人、ご家族から情報を収集し本人にとって大切な人、場所とのかわりが継続できるよう努めています。月に2~3回ご家族と自宅で過ごす方や、離れて住むご家族と電話で話をする方、俳句の友人と出かけた場所へドライブに出かけたりしています。	
			(外部評価) 入院中にできたお友達が法人の病院に受診に来られた際、立ち寄ってくださることもある。ドライブに出かけた際には、ご自宅の庭をみて帰ることもあり、ご家族は、前もって草引きをして、気持ちよく迎えてくださっている。年賀状は、利用者職員と職員の集合写真を入れて、できるだけご本人にコメントを書いてもらって、ご家族に出すよう支援されている。お誕生日に、ご家族からプレゼントが届いた際には、ご家族がお仕事から帰ってくる時間を見計らい、利用者がお礼を言えるよう、電話をかけてサポートされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 認知症状により利用者間でトラブルがあり、同じトラブルが起こらないよう未然に防ぐ工夫をしています。職員が間に入りコミュニケーションをとることで一緒に暮らす仲間意識ができ、体調が悪かったりするといったわり合っています。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院によりGH退居された方を見舞い、家族の話聞き、話の内容によりワーカーに繋いでいます。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者が今どうしたいか・どう感じ考えているかを知るよう努めています。生活歴や生活習慣なども含み本人の言葉を大切にしています。意向を伝えることが難しい方は表情や情報から思いを探っています。 (外部評価) 「基本情報シート」に、習慣や好み、キーワードとなるエピソードの情報が集められている。さらに、センター方式の「今の生活」の様式を用いて、時系列で利用者の言葉をそのまま記入されている。職員は、毎月ご家族に送付する「連絡表」を作成する際、毎月経過記録を見直し整理されており、利用者一人ひとりの思いの把握につながっている。終末期を迎えた方で、胃ろうを造設するかどうか、ご家族の判断が必要となり、ご家族が悩まれていた際、利用者ご本人が日頃から「自分の身の回りのことが自分でできんようになったら、何もしてほしくない」と口癖のように言っていたことをご家族にお伝えしたようなことがあった。ご家族はご本人の思いを考慮して判断されたようだ。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に本人や家族、サービス事業所等に情報を得ています。又、回想法等生活していくうち知り得ることもあり、記録に残しておくようにしています。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その人の1日の生活の様子や言動、体調やADLなどについて月1回 連絡表にまとめることで現状を把握しています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人・家族に意向を伺い、意向の実現にはどうすれば良いかみんなで話し合い、Drやリハビリスタッフ等の意見も取り入れてプランを作成しています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、利用者・ご家族の希望等もお聞きして、職員全員で意見交換して作成されている。計画は、利用開始時は、3ヶ月ごと、その後は、半年ごとに見直しておられる。毎月カンファレンスを行っておられ、時には、居室にて利用者・ご家族・リハビリの担当者に参加していただき、例えば「転倒を防ぎ、危険のない動きをするために、どう支援するか」について話し合い、計画につなげておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>一日の様子を時間ごとに記録する様式を使い、ケア内容や気づき・工夫を記入して職員が情報を共有しケアに活かしています。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>生活していく上で発生するニーズに対応できるよう柔軟な考えで対応しています。 屋外での食事の希望に対し相談員や家族・友人と一緒に流しそうめんを計画し実行しました。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>GHの周りにある地域資源について運営推進会議で情報を出してもらい、利用者が培ってきた地域との関係を知り今後検討していく予定です。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) かかりつけ医との関係を良好に保ち、本人・家族の希望をきちんと伝え、今後についても話し合い、緊急時にも対応してもらえるようになっていきます。 協力医療機関の看護師が週1度訪問し利用者の健康状態をチェックし、変化に応じて受診の手配をしています。</p> <p>(外部評価) 系列病院の医師がかかりつけ医となっており、24時間体制いつでも相談できるようになっている。歯科もあり、義歯の調整等で、ほとんどの方が定期的な歯科受診されており、口腔ケアの指導もしてくださっている。毎朝、洗面して、口を漱いでから入れ歯を入れるようにされている。毎週火曜日には、法人の理学療法士が来てくれて、リハビリ体操を行っておられる。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 個々の利用者について情報を伝え相談できる関係となっています。アドバイスをを受けたり、受診の判断をしてもらっています。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 入院中ほぼ毎日面会し、本人だけでなくご家族も安心できるよう話をしています。骨折手術後 GHからリハビリに通院することで早期退院できています。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者のご家族に看取りを含め今後どうしたいか希望をうかがうようにしています。GHでできる支援内容を説明しご家族が感じている不安や心配を聞くようにしています。</p> <p>(外部評価) 昨年度の、実地指導の際、看取りの指針の明示や、内容説明・同意を得ることについてアドバイスがあり、事業所ではこれまでの看取りの指針をより具体的に見直しをされた。家族会時に看取りの指針にもとづき、事業所でできること等を説明され、ご家族への協力も呼びかけられた。利用者の意向は、受診時等を利用して、ご本人、ご家族、管理者、主治医のいる中でお聞きし、新しいく入居する利用者には、利用契約時等、早い段階にもうかがうようにされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 病院の勉強会に参加したり、応急手当等について学んでいます。病院が近くストレッチャーで搬送した方が早い為連絡体制についても話し合っています。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災訓練の際、利用者を職員ひとりで屋外に避難させられる方法を実際行っています。又、水害時に2階に避難する訓練も行っています。地域の方、病院にも避難場所を伝え、協力体制をつくっています。	
			(外部評価) 年2回、併設するケアハウスと合同で避難訓練を実施されており、地域の方達も参加されている。事業所独自でも2ヶ月に1度、水害に備え、利用者に階段で2階に上がってもらう訓練をしている。3月の震災をうけて、廊下に物を置かず広いスペースをとっておくようにした。いざという時に点かないということがないように、懐中電灯のチェックを定期的に行うようにした。母体病院と法人の施設が地域の自治会の避難場所となっている。ケアハウスと合同で飲食品の備蓄をされている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者をひとりの人として接し、安心し尊厳のある暮らしができるよう対応しています。自分や家族だったらどう感じるか考え、介護する側される側といった表面的ではない親身なかかわりを努めています。	
			(外部評価) 10月には、高齢者虐待法について勉強会を行い、職員で知識を深められた。言葉遣いについては、職員同士で気を付けておられ、不適切な声かけにならないように注意されている。トイレへの声かけは、周りに配慮して行い、排泄の失敗等がみられた時には、さりげない対応に努めておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者とのスキンシップを図り、寄り添い話を傾聴するようにしています。利用者が表情豊かに語り冗談を言ったりする中で思いを知ることが多くあります。尋ねるような言葉かけにするよう意識しています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人らしい暮らしが送れるよう支援しています。 外へと出かけたい時、希望に応じ散歩やドライブへ出かけて います。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 季節に合った、その人らしいおしゃれができるよう支援してい ます。一緒に買い物に行き本人と相談しつつ衣服を購入し た方は10歳若くなったと喜ばれています。お花見や祭り見 物の際、お化粧品を手伝っています。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みを考慮し食事づくりをしています。調理が得意 な方は一緒に食事づくりを手伝ってもらい、食器洗いやテー ブル拭きなど、その人ごとできることを行ってもらっています。 男性の利用者も食後の食器洗いをすすんで行われています。	
			(外部評価) 病院の栄養士が立てた献立をもとにして、新鮮な魚や季節 の野菜を多く採り入れ、食事作りをされている。地域の方から 野菜をいただいた時には、利用者と一緒に教えていただき ながら、料理されており、大根やカブは漬物にすることもあ る。利用者が集うテーブルと台所は近く、職員は食材を利用 者にお見せしながら今日の献立を伝えておられ、調理の音 や匂い等も感じながら、利用者は食事を楽しみにされてい る。調査訪問時、鯛飯に入れるためのごぼうをささがきにし てくださる利用者の様子や食後、食器を洗う利用者の様子 が見られた。食事とおやつ時には、テーブルクロスをかけ、食 事の雰囲気作りをされていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) その人ごとの食事量としています。食欲が減退し体重が減っ ている方には、食間に補助食品を摂ってもらっています。 又、好みや体調、歯の具合等により献立を臨機応変にし、水 分でムセがある方にはポカリゼリー等で水分摂取してもらっ ています。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 清潔保持と誤嚥防止のため、食後に行ってもらっています。 自分では行わない方、できない方、手伝っています。夜は義 歯を預かり洗浄しています。 協力歯科機関で口腔ケア指導を受けています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) ひとりひとりの排泄リズムを把握し、トイレでの排泄が間に合うようトイレ誘導しています。布パンツのみの使用の方もいます。	
			(外部評価) ご自分でトイレに行く利用者には、基本的に声かけせず、ご本人のパターンで排泄できるように見守っておられる。布パンツを使用し、ご自分で下着の洗濯を行う方もいる。声かけ等、排泄支援の必要な利用者には、排泄チェック表で、排泄リズムを把握して個々のパターンに合わせ、声かけされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) その人ごと体調に注意し、水分補給や軽い運動を勧めています。ヨーグルトの飲用で便秘が改善した方がいます。腸の動きの悪い方 Drと相談し漢方の服用で腹部不快なく排便のリズムができました。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) その人ごとの入浴の好みを知り、ゆっくり楽しんで入浴してもらえるように努めています。現在はほとんどの方が夕食後の入浴をされています。仲良しの方と入ることによって歌ったりおしゃべりしたり洗身し合ったり楽しい時間となっています。	
			(外部評価) 利用者は、希望により全員が夕食後に入浴できるよう支援されている。「体を洗ってから浴槽で温まりたい」「温まってから体を洗いたい」等、個々の習慣や希望に応じた支援に取り組まれている。小柄な利用者の方から、「たっぷりのお湯で温まりたい」と希望があり、今後、吸盤付きの風呂用椅子を購入して、浴槽に入れて使用する予定となっていた。壁に富士山の絵が貼ってあり、浴室の雰囲気も楽しめるように工夫されていて、利用者は気に入られているようだ。仲よし同士で入ったり、お湯で温まりながら歌を歌う方もいる。浴室で体や髪を洗う時間に、足浴を行い、そのあと職員が足を洗い、水虫対策も行っておられる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 就寝前の入浴、ゆっくりした時間、温かい飲み物、仲よしの人とおしゃべり等、就寝前に安心して過ごしてもらうよう支援しています。夜中に不安で訴えのある方には傍に居て背中をさすったり、温かい飲み物勧めています。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ひとりひとりの薬について薬剤師の協力の下、分かりやすくファイルにまとめています。服薬での症状の変化は早急にDR・NSに相談報告しています。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生きがいを感じて暮らせるよう、その人ごと得意とすること・好むことを支援しています。(編み物・調理・ドライブ・読書・音楽など) また、利用者が自分の生活のリズムのなかで役割や居場所を見出していけるよう自然な姿勢で生活の支援を行っています。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 駅への散歩を希望する方には一緒に駅へ出かけています。ご家族の協力で月2~3回自宅で過ごしています。秋祭りには地域の方の協力があり街中での祭り見物を楽しむことができました。 (外部評価) ドライブで「武丈公園」や加茂川の河川敷の「トリム公園」によく出かけておられる。新聞のチラシを見て、利用者が「お寿司が食べたい」と言われるような時には、買いに行かれたり、洋服を買いに出かけることもある。定期的に病院のリハビリに行く方もあり、病院までの歩行と外部の人と出会うことが利用者にとって良い刺激にもなっているようだ。ご家族の来訪時には、利用者をできるだけ散歩に連れ出してもらえるように、声をかけておられる。	近々、新しく入居する利用者の歓迎会を兼ねて、回転寿司に出かけることを計画されている。今後も、利用者の行ってみたい場所やなつかしい場所等を探り、出かけてみるような支援を工夫していかれてほしい。又、日々の散歩等、日常的な外出への支援については、ご家族の希望等もお聞きしてみる機会を作ってみてはどうだろうか。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人が管理している方もおり、外出時希望に応じて使っています。又、こちらで預かっている方には必要時、本人にお渡しし自分で判断して使ってもらうようにしています。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人からの希望がなくてもこちらからプレゼントのお礼に電話してはと勧めたり、不安な時、声を聞いてもらったりしています。年賀状には近況の写真と共に本人のコメントも記入してもらっています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>現在の建物のハード面をカバーし、居心地良く暮らせるよう季節感のある空間づくりを工夫しています。かまぼこ板の再利用は好評で利用者と一緒に相談して作っています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関まわりには、シクラメンの鉢植えやクリスマス用の寄せ植えを飾っておられた。手洗い場には、利用者から「花瓶にせんかい」と、もらった化粧水の空きビンに、ばらの花を一輪飾っておられた。トイレから出て、ちょっと一人になりたい方のために、トイレから出たところに椅子を置いておられ、玄関の外を眺めることができるようになっている。廊下の一角にソファが設置されており、仲の良い方同士で過ごす場所になっていて、利用者が居られる時には、職員が机とお茶を持っていき、ゆっくりおしゃべりできるように気配りされている。調査訪問時、午後から、法人内の理学療法士がリハビリに来てくれており、30分程度、座ってできる体操を行っておられた。その後、輪になってビーチボールを回し、レクリエーションを楽しんでおられた。利用者は、事業所内を歩行器やシルバーカーで移動しておられ、できるだけご自分の力を使って移動できるよう、職員は見守りやサポートをされている。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>狭い空間ですが、玄関のちょっとした空間も利用者がひとりになれる場となっています。又、利用者数人がなごやかに談笑して過ごせるスペースがあります。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ホッと落ち着き くつろげる部屋づくりを本人・ご家族と相談して工夫しています。 使い慣れた鏡台や椅子を置かれたり、ご家族の写真を飾られたり、御主人の写真の前に花を活けたりとその人ごとにされています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室入口にカーネーションやひまわり等の花を飾り目印にされたり、ドアの取っ手に名前のラベルを貼って、ご自分の居室が分かりやすいようにされている。ご家族の写真や、お祭りがお好きな利用者の方は祭りのポスターを飾っておられた。ご自宅から鏡台やソファを持って来られたり、ぬいぐるみやご家族が折った千羽鶴等もみられた。冬場は、塗れバスタオルをかけ加湿に気を付けておられる。個人で新聞を取っている方もあり、読んだ後はご自分で整理をされている。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>自室がわかりにくい方に本人の目線に飾り物で目印をしています。トイレの場所が分かりにくくなっている方が多くあり、ドアにトイレの文字を入れてみました。</p>	